

2007年5月9日

A decorative background consisting of a grid of blue and cyan circles of varying shades, arranged in a pattern that tapers towards the top and bottom edges.

2007年3月期決算の概要

東レ株式会社
代表取締役社長 榊原定征

・ 2007年3月期決算の概要

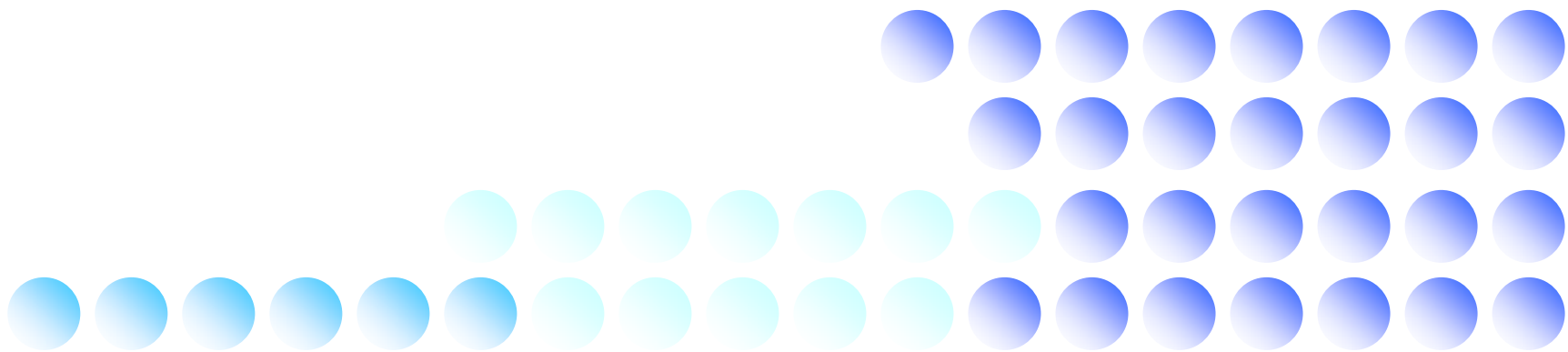
2007年3月期連結決算概要	(P4)
売上高・営業利益の推移	(P5)
総資産・D/Eレシオ、ROA・ROE	(P6)
営業外収支	(P7)
特別損益	(P8)
資産・負債・純資産	(P9)
設備投資額・減価償却費	(P10)
事業セグメント別売上高・営業利益	(P11)
事業セグメント別売上高・営業利益推移	(P12)
東レ・国内・海外別売上高・営業利益	(P13)
事業セグメント別業績	(P14-21)
営業利益増減要因分析	(P22)
主要子会社収益状況	(P23)

・ 2008年3月期業績見通し

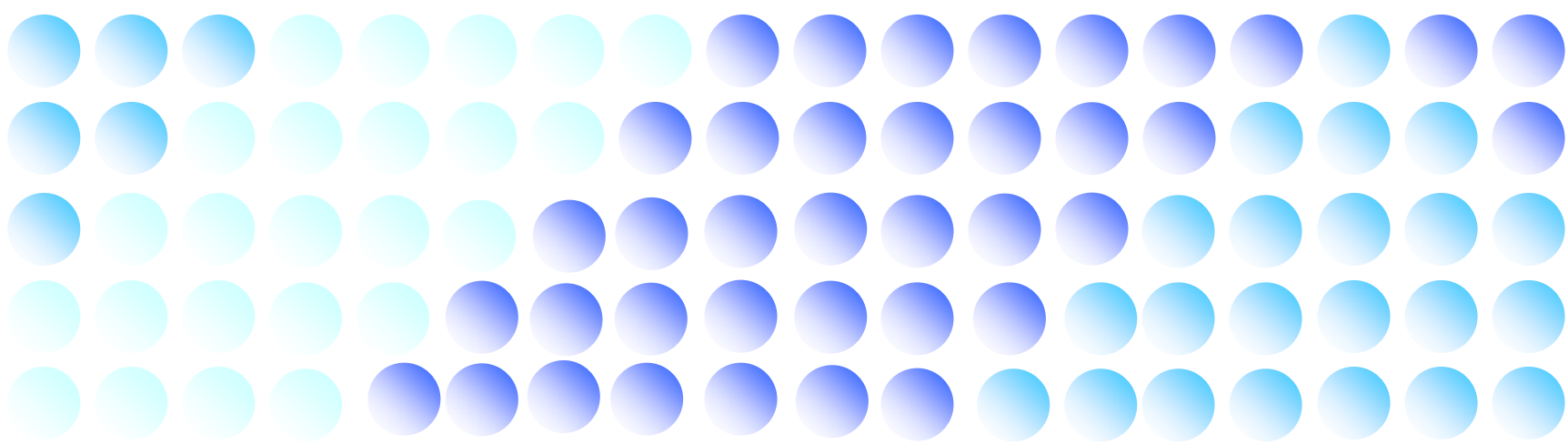
2008年3月期連結業績見通し	(P25)
事業セグメント別業績見通し	(P26)
事業セグメント別事業環境とアクションプラン	(P27)
設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し	(P28)
東レグループ2007年度設備投資見通し	(P29)
原料価格の見通し	(P30)

・ 最近のトピックス

トピックス(06/4～07/4)	(P32-33)
< 参考資料 >	(P34-37)



. 2007年3月期決算の概要



2007年3月期連結決算概要

Innovation by Chemistry

単位: 億円

	06年3月期			07年3月期			通期増減
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
売上高	6,788	7,487	14,275	7,462	8,002	15,465	+1,190 (+8.3%)
売上原価	5,367	5,875	11,242	5,941	6,273	12,214	+972 (+8.6%)
売上総利益	1,421	1,612	3,033	1,521	1,729	3,251	+218 (+7.2%)
(売上高総利益率)	20.9%	21.5%	21.2%	20.4%	21.6%	21.0%	-0.2 ポイント
販売費及び一般管理費	1,032	1,070	2,102	1,092	1,134	2,226	+124 (+5.9%)
(売上高販管費比率)	15.2%	14.3%	14.7%	14.6%	14.2%	14.4%	-0.3 ポイント
営業利益	388	542	930	429	595	1,024	+94 (+10.1%)
(売上高営業利益率)	5.7%	7.2%	6.5%	5.7%	7.4%	6.6%	+0.1 ポイント
営業外収支	20	34	54	24	25	49	+5
経常利益	368	508	877	405	570	975	+99 (+11.3%)
特別損益	60	14	73	111	47	158	-85
税前利益	309	495	803	294	523	817	+14 (+1.7%)
当期(中間)純利益	168	307	474	280	305	586	+112 (+23.6%)

1株当たり 当期純利益	12.0円	21.8円	33.7円	20.0円	21.8円	41.8円
1株当たり配当金	4.0円	4.0円	8.0円	5.0円	5.0円	10.0円

* 3月決算会社は4～3月の業績、
12月決算会社は1～12月の業績を連結

為替レート

<円/US\$>

	(前期)	(当期)
期中平均	: 113.3	117.0
期末	: 117.5	118.1

<円/ユーロ>

	(前期)	(当期)
期中平均	: 137.9	150.1
期末	: 142.8	157.3

原油価格

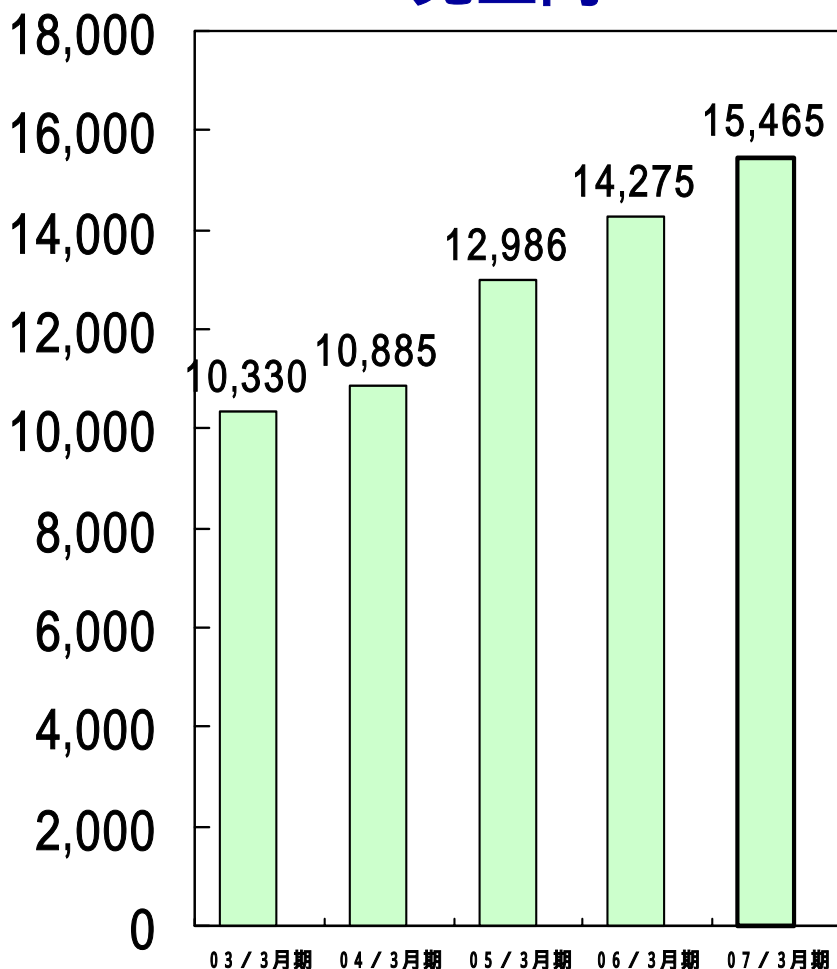
<US\$/バレル>

	(前期)	(当期)
期中平均	: 53.5	60.9

売上高・営業利益の推移

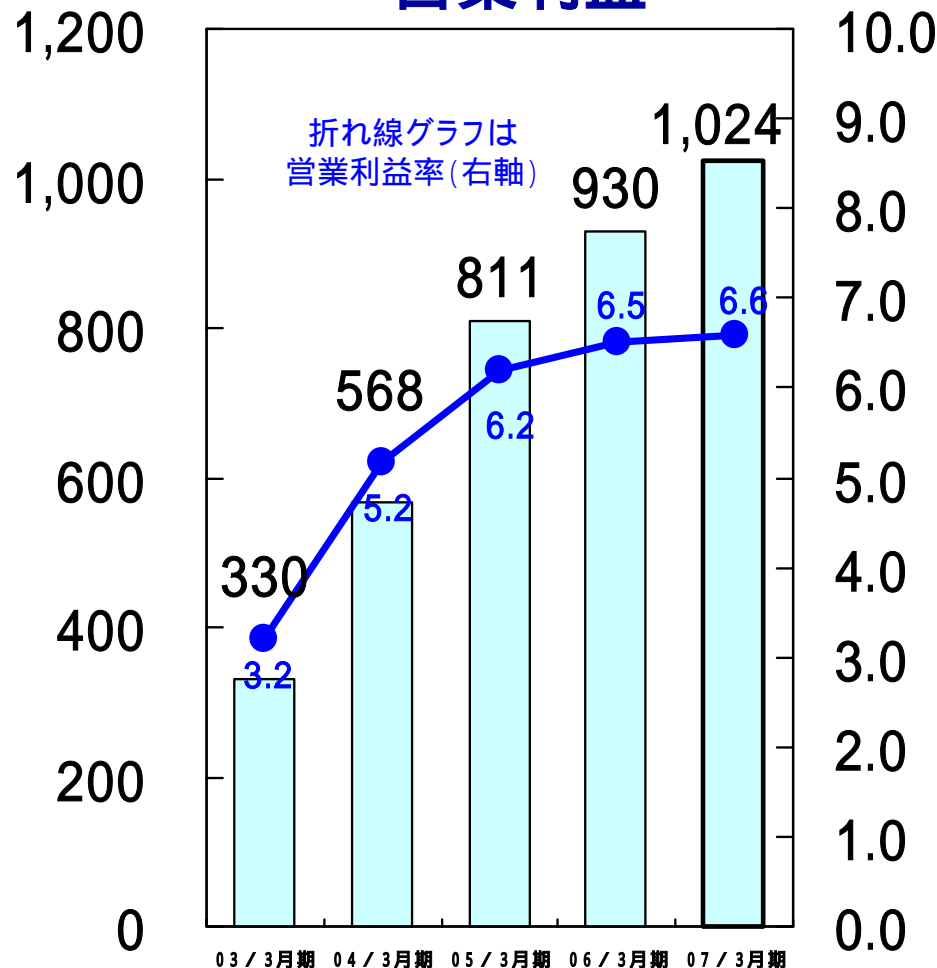
億円

売上高



億円

営業利益



総資産・D / Eレシオ、ROA・ROE



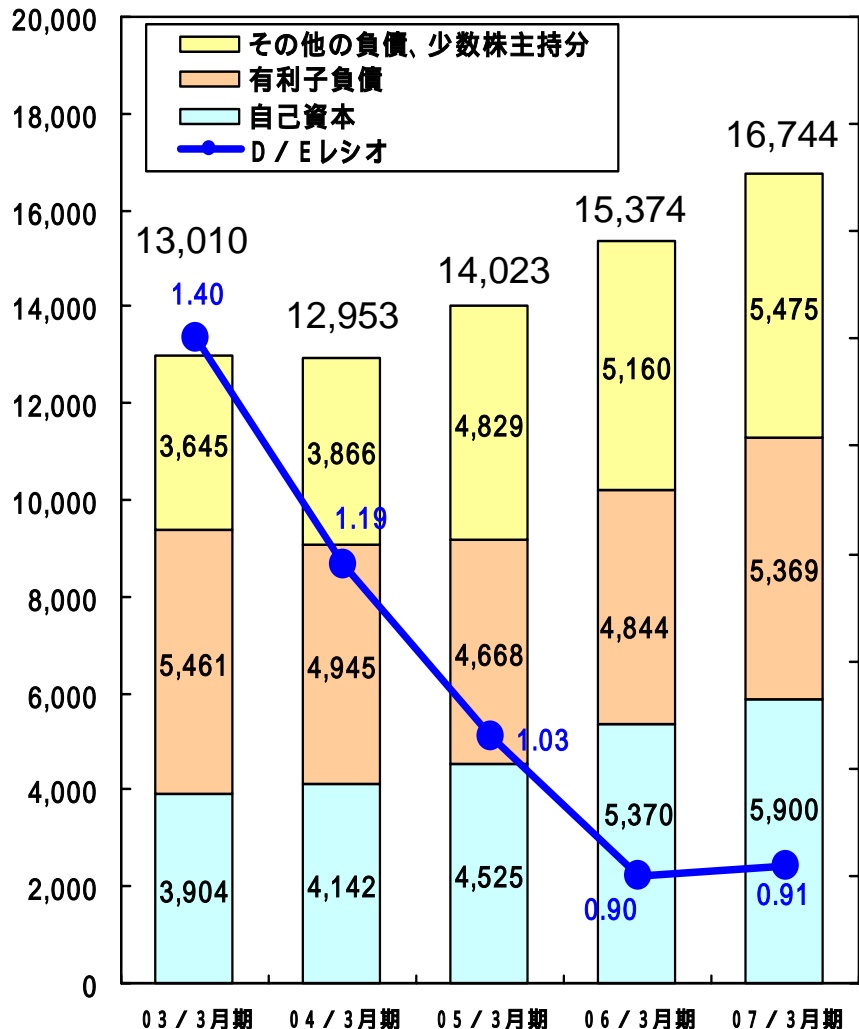
Innovation by Chemistry

ROA = 営業利益 / 総資産

ROE = 当期純利益 / 自己資本

総資産・D / Eレシオ

億円

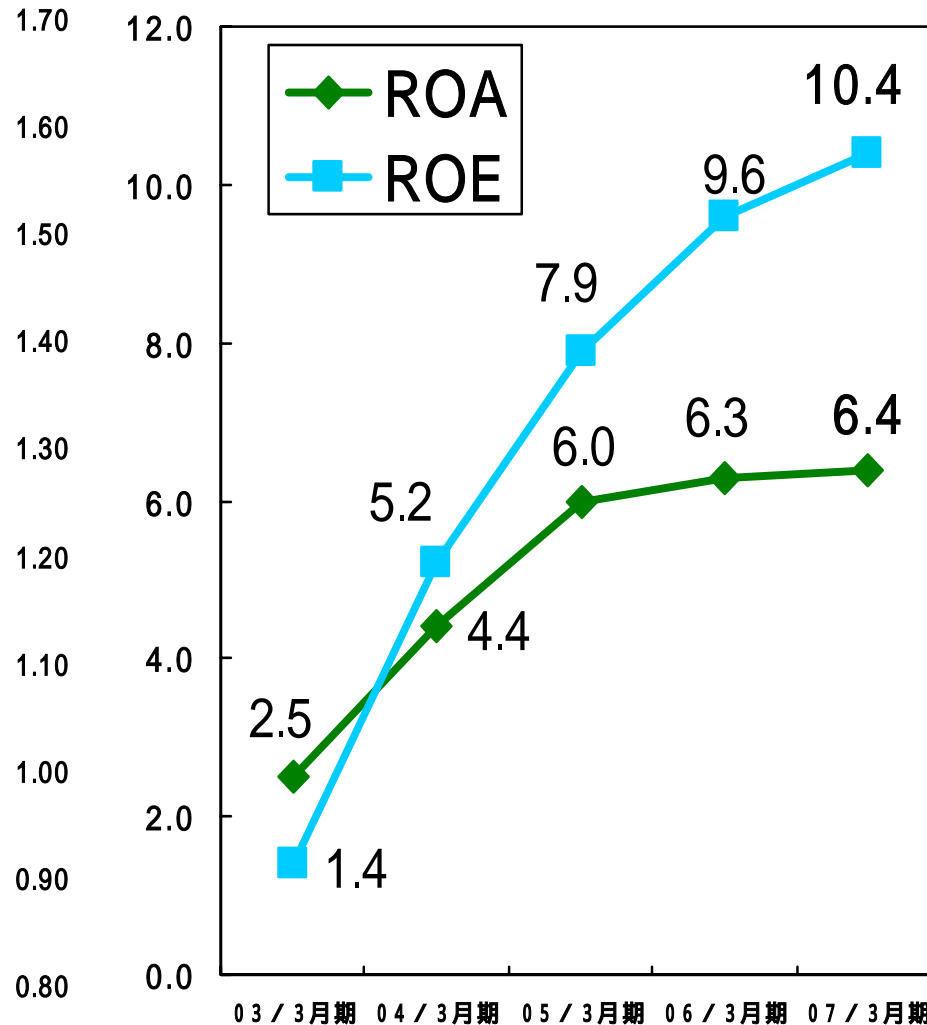


倍 %

ROA・ROE

倍

%



営業外収支

億円

	06年3月期	07年3月期	増減	特記事項
営業外収益	161	196	+35	
受取利息及び配当金	25	32	+7	
持分法による投資利益	62	83	+21	国内関連会社の収益拡大等
雑収益	74	81	+7	
営業外費用	215	245	-30	
支払利息	80	98	-19	
雑損失	135	147	-12	
営業外収支	54	49	+5	
金融収支	55	66	-12	
雑収支	62	66	-5	

注) 収益はプラス、費用はマイナス()で表示

特別損益

億円

	06年3月期	07年3月期	増減	特記事項
特別利益	47	98	+51	
有形固定資産売却益	10	14	+4	
投資有価証券売却益	36	83	+47	保有意義の低下した株式の売却等
その他	1	1	+1	
特別損失	120	257	-136	
有形固定資産売却廃棄損	35	51	-15	
減損損失	17	149	-131	子会社の固定資産の減損等
投資有価証券評価損	2	3	-1	
関係会社整理・評価損	9	18	-9	
構造改善費用	20	15	+5	
退職給付制度改定損失	14	-	+14	
在外子会社退職給付引当損	18	17	+1	
その他	4	4	+0	
ネット特別損益	73	158	-85	

注) 収益はプラス、費用はマイナス()で表示

資産・負債・純資産

億円

	06年3月末	07年3月末	増減	特記事項
資産合計	15,374	16,744	+1,370	
流動資産	6,623	7,275	+652	棚卸資産の増加等
有形固定資産	5,862	6,434	+572	設備投資の増加等
無形固定資産	115	135	+20	
投資その他	2,774	2,901	+127	

	06年3月末	07年3月末	増減	特記事項
負債合計	9,467	10,248	+781	
流動負債	5,379	5,410	+31	
固定負債	4,088	4,838	+750	社債の発行等
少数株主持分	537	-	-	
資本合計	5,370	-	-	
純資産合計	-	6,497	-	
有利子負債残高	4,844	5,369	+525	
D / Eレシオ*	0.90	0.91	+0.01	

* 06年3月末は、有利子負債残高 / 資本合計、07年3月末は、有利子負債残高 / 自己資本 (= 純資産 - 少数株主持分)

設備投資額・減価償却費

億円

	06年3月期	07年3月期	増減	特記事項
設備投資額	1,029	1,204	+176	東レ:498、国内:148、海外:558
減価償却費 -)	629	708	+80	東レ:295、国内:98、海外:316
振替・除却等	142	75	-67	
有形固定資産増減	543	572		

主な設備投資：

- <国内> 東レ : 炭素繊維・プリプレグ設備 2007年1月稼働
- <海外> TSI : 光学用フィルム設備(韓国) 2007年上期稼働予定
- <海外> SOFICAR : 炭素繊維設備(フランス) 2007年8月稼働予定

事業セグメント別売上高・営業利益

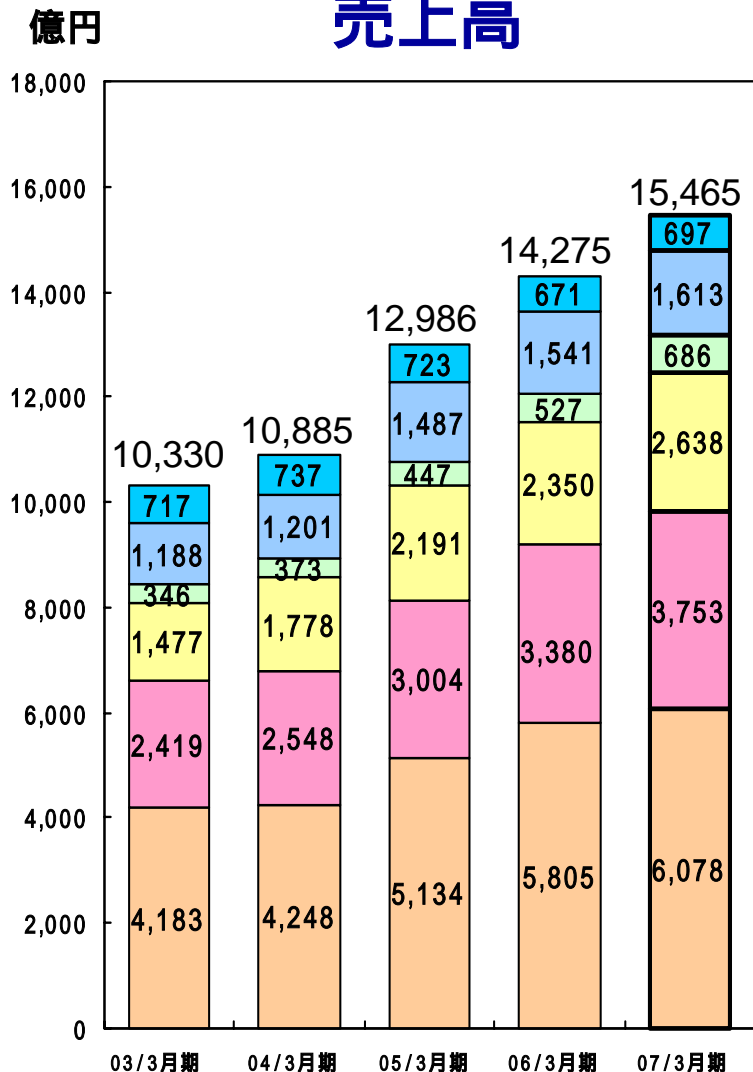
Innovation by Chemistry

億円

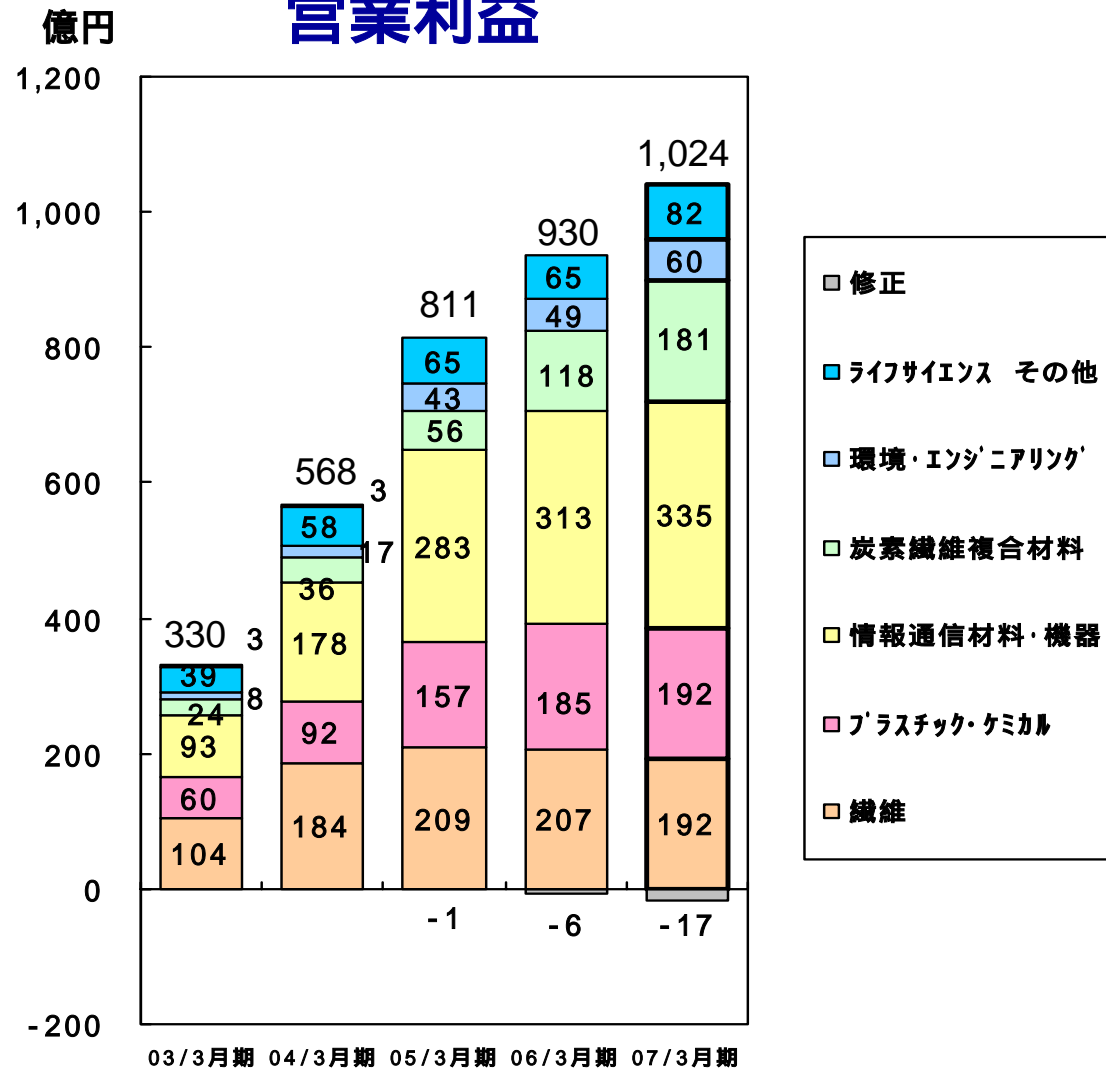
		売上高				営業利益			
		06年 3月期	07年 3月期	増減	(%)	06年 3月期	07年 3月期	増減	(%)
繊維	上期	2,887	3,018	+131	(+4.5%)	104	95	-9	(-8.6%)
	下期	2,918	3,059	+141	(+4.8%)	103	98	-6	(-5.4%)
	通期	5,805	6,078	+272	(+4.7%)	207	192	-15	(-7.0%)
プラスチック・ケミカル	上期	1,588	1,846	+258	(+16.2%)	86	87	+0	(+0.5%)
	下期	1,791	1,907	+116	(+6.4%)	99	106	+7	(+7.2%)
	通期	3,380	3,753	+373	(+11.0%)	185	192	+7	(+4.0%)
情報通信材料・機器	上期	1,111	1,278	+166	(+15.0%)	131	145	+14	(+10.9%)
	下期	1,239	1,360	+122	(+9.8%)	182	189	+8	(+4.2%)
	通期	2,350	2,638	+288	(+12.3%)	313	335	+22	(+7.0%)
炭素繊維複合材料	上期	244	319	+75	(+30.7%)	59	88	+29	(+49.8%)
	下期	283	367	+84	(+29.7%)	59	92	+33	(+56.2%)
	通期	527	686	+159	(+30.1%)	118	181	+63	(+53.0%)
環境・エンジニアリング	上期	619	678	+59	(+9.5%)	12	1	+13	(-)
	下期	922	935	+13	(+1.4%)	61	58	-3	(-4.2%)
	通期	1,541	1,613	+72	(+4.7%)	49	60	+10	(+21.0%)
ライセンスその他	上期	337	323	-14	(-4.3%)	20	20	-1	(-2.6%)
	下期	334	374	+40	(+12.1%)	44	62	+18	(+39.5%)
	通期	671	697	+26	(+3.9%)	65	82	+17	(+26.3%)
(内医薬・医療材)	上期	203	200	-3	(-1.6%)	6	6	-0	(-6.3%)
	下期	232	268	+36	(+15.7%)	26	42	+16	(+64.3%)
	通期	435	468	+33	(+7.6%)	32	48	+16	(+50.0%)
消去又は全社	上期					0	7	-7	
	下期					6	10	-4	
	通期					6	17	-11	
連結	上期	6,788	7,462	+674	(+9.9%)	388	429	+41	(+10.5%)
	下期	7,487	8,002	+516	(+6.9%)	542	595	+53	(+9.8%)
	通期	14,275	15,465	+1,190	(+8.3%)	930	1,024	+94	(+10.1%)

事業セグメント別売上高・営業利益推移

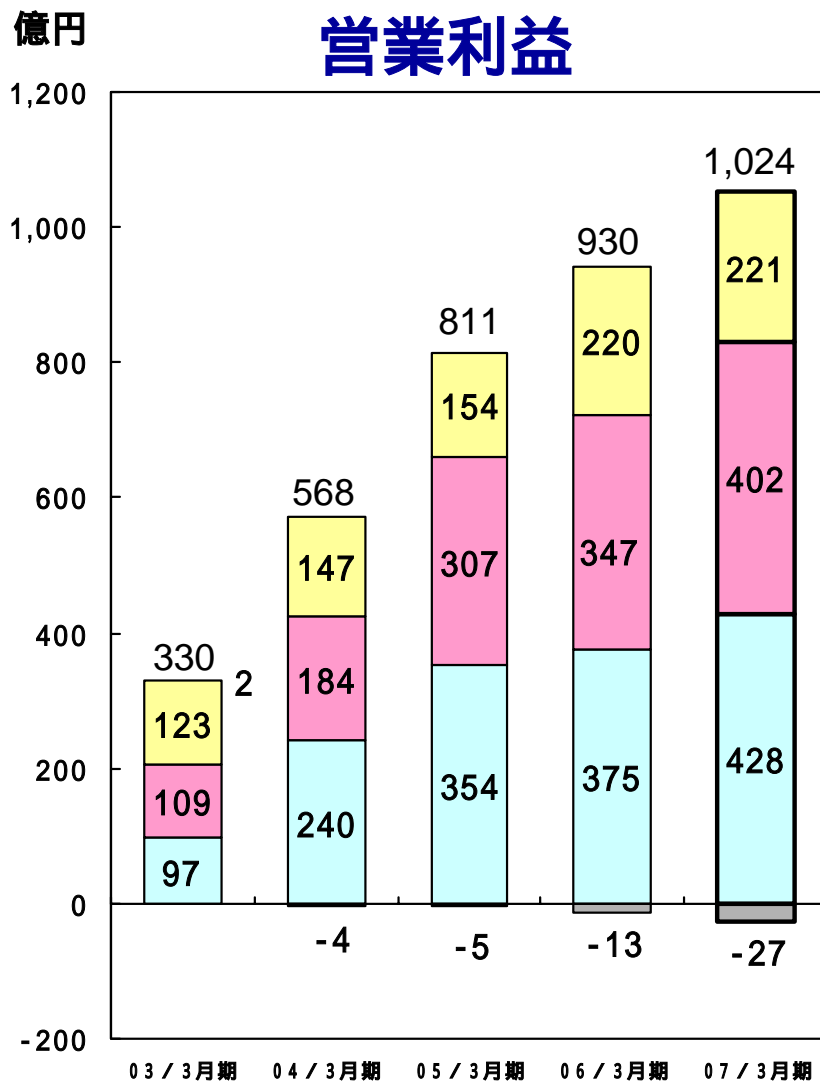
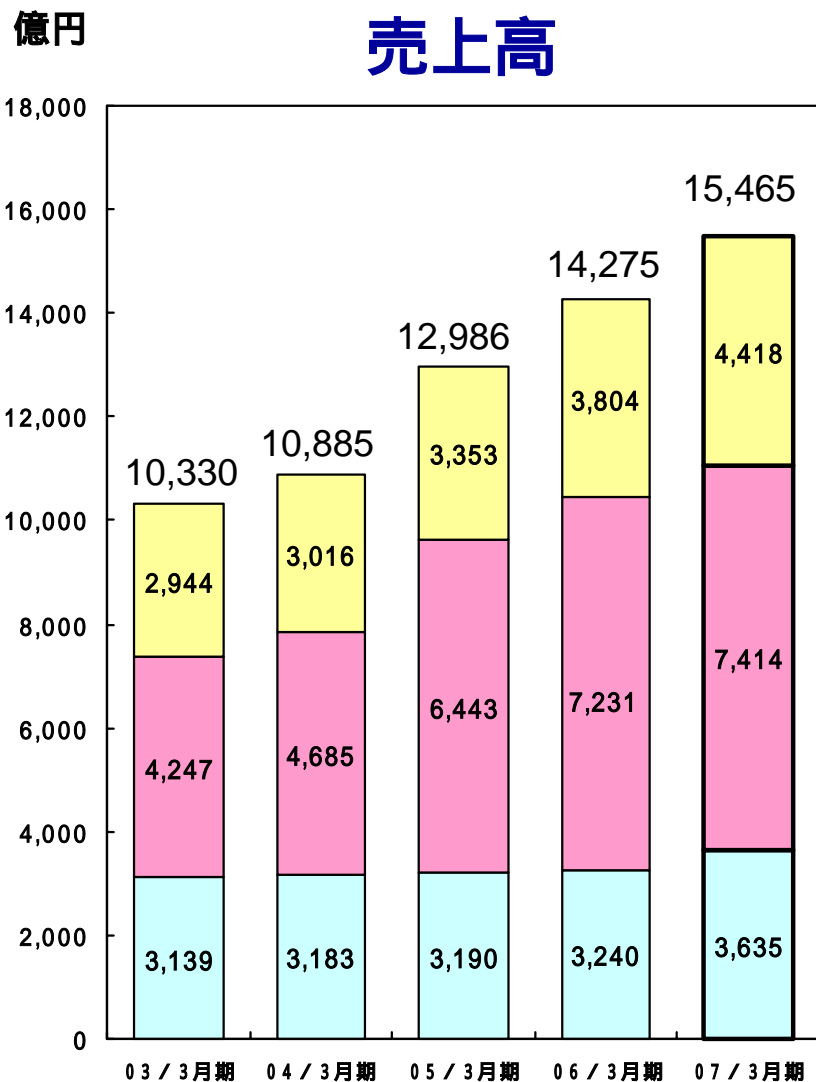
売上高



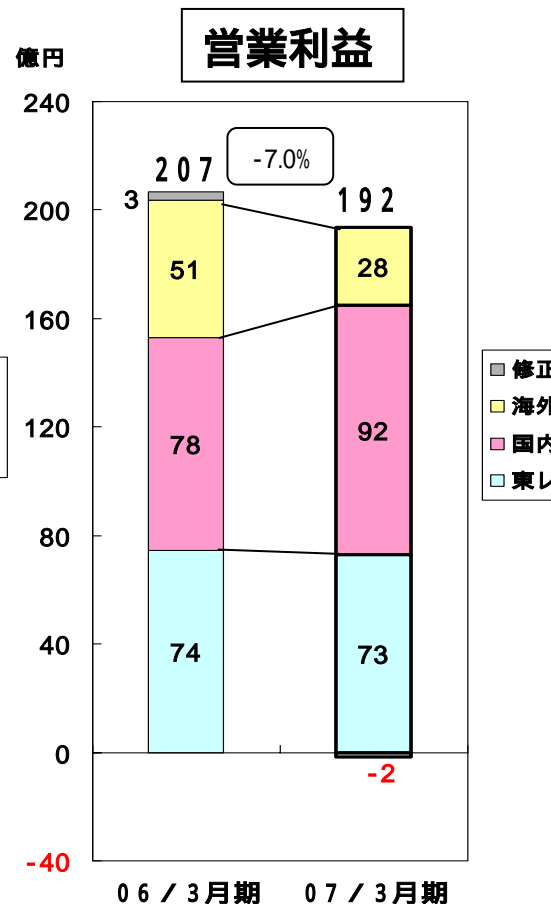
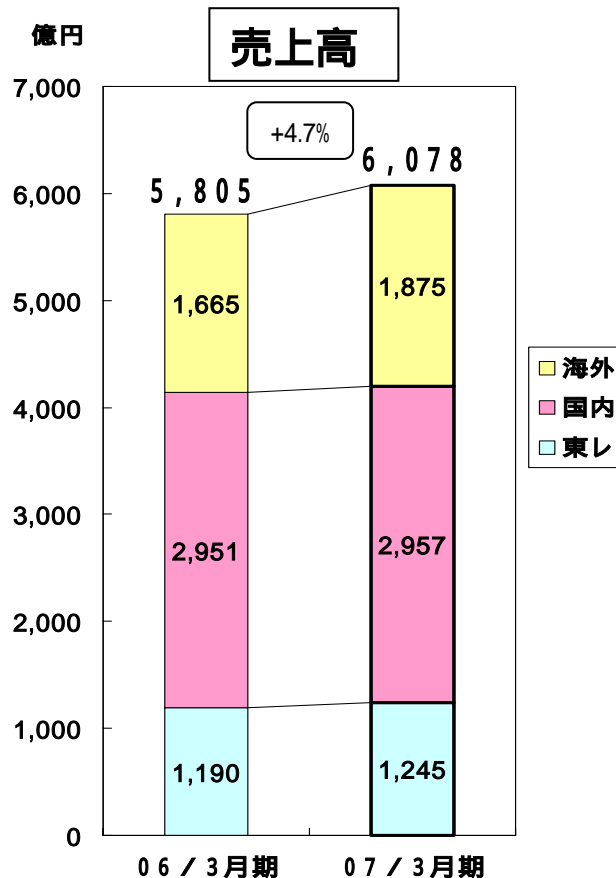
営業利益



東レ・国内・海外別売上高・営業利益



事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

原燃料価格高騰の影響に対し、価格転嫁と高付加価値品へのシフトを進め、増収、利益横這い。テキスタイルは、国内ユニフォーム向け拡販、高付加価値品の欧米輸出拡大等により、増収増益。

国内子会社

商事子会社が拡販を進めたこと等により、増収増益。

海外子会社

中国子会社各社の収益が改善。韓国子会社のスパンボンド事業、タイ子会社のエアバッグ用ナイロン事業が拡大するも、原燃料高、通貨高により東南アジア子会社各社が苦戦、英国子会社の不振等もあり、海外全体で増収なるも減益。

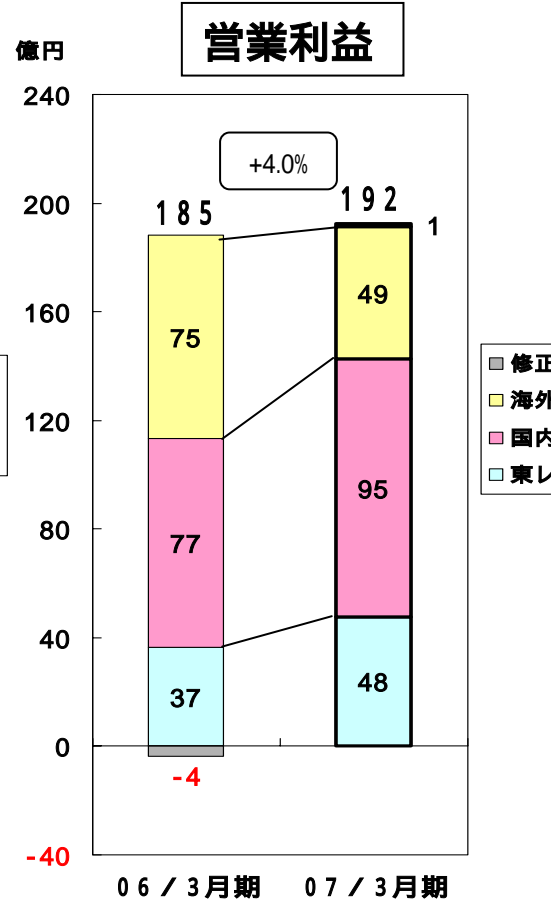
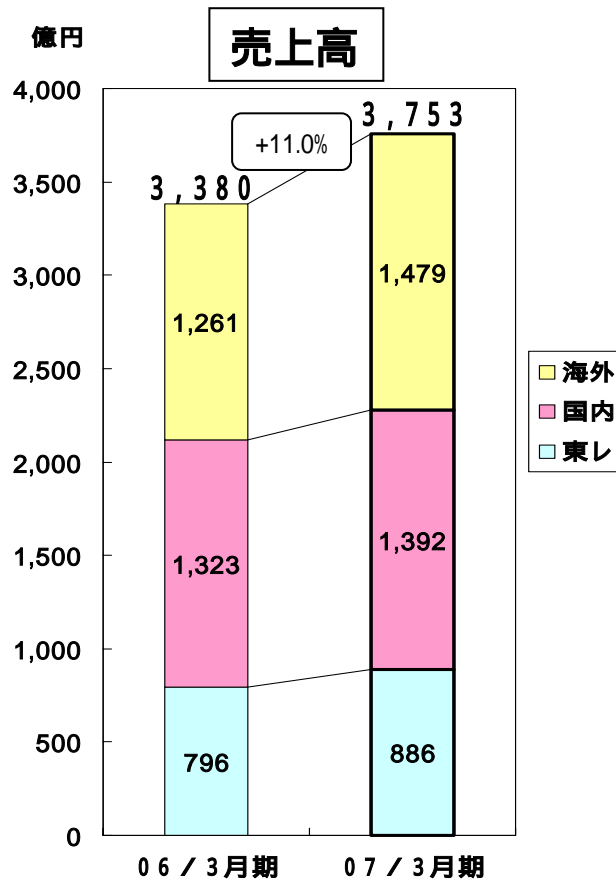
< 主要関係会社 >

国内：東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア：PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米：ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂事業は、自動車用途、家電・ゲーム機用途等を中心に拡販を進め、フィルム事業では、ハイブリッドカー用コンデンサー用途等で拡販を進めた。ケミカル事業もファインケミカル製品を拡販したこと等により、全体で増収増益。

国内子会社

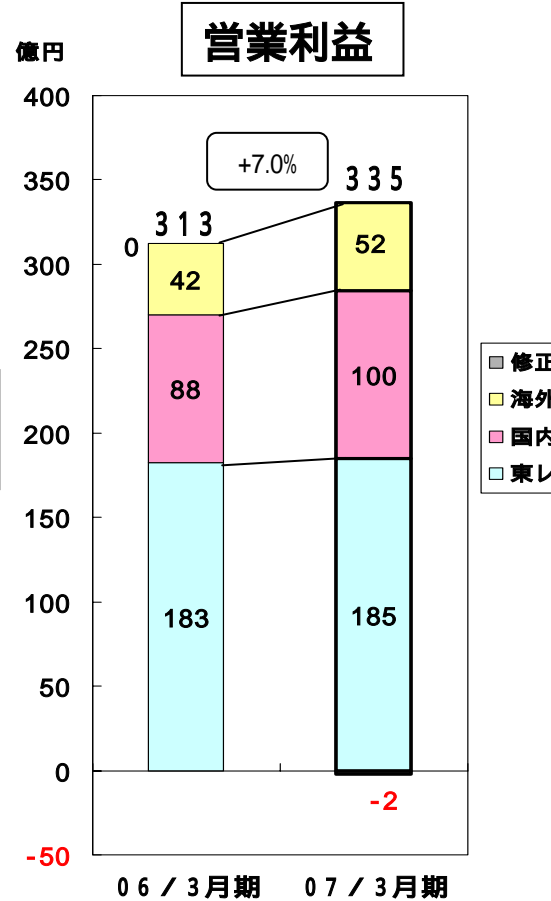
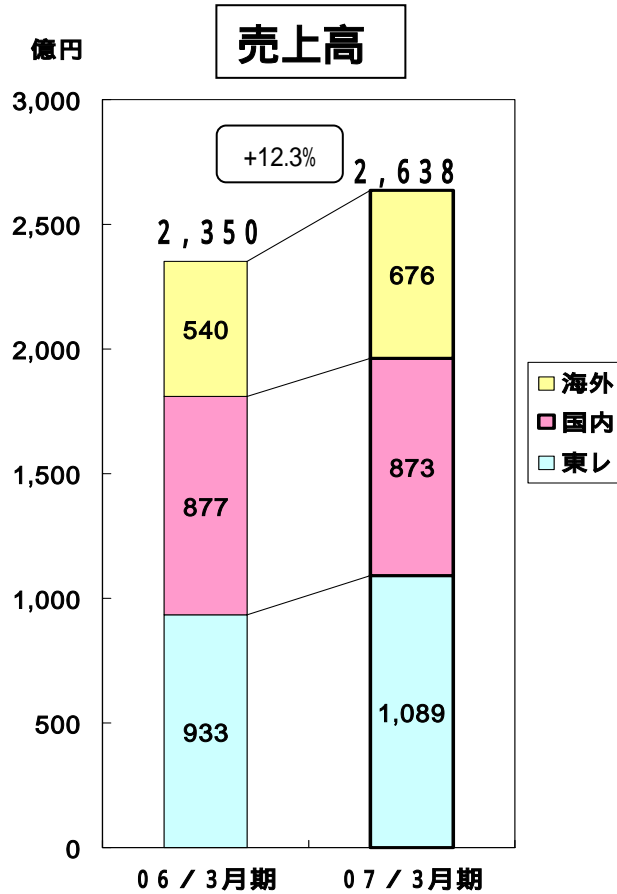
樹脂・フィルム・ケミカル・商事の各子会社とも堅調に推移し、増収増益。

海外子会社

アジアの樹脂子会社、米国フィルム子会社等の拡販により、増収となるも、韓国フィルム子会社が戦略的に情報通信材料・機器セグメントにシフトしたこと、また、欧州市場でアジア低価格品が流入し欧州フィルム子会社が苦戦したこと等により、全体として減益。

< 主要関係会社 >

国内：東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他
 海外：TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他



東レ

FPD関連フィルムや電子部品関連フィルム、PDP関連材料の拡販に加え、半導体関連材料等も好調に推移し、液晶カラーフィルター、回路材料の不振を補い、全体で増収増益。

国内子会社

フィルム加工子会社等が拡販も商事子会社が減収となり、売上高ほぼ横這い。IT関連機器子会社の収益性向上等もあり、増益。

海外子会社

韓国フィルム子会社が、FPD・電子部品関連フィルムおよびフィルム加工品の拡販を進めたこと等により、増収増益。

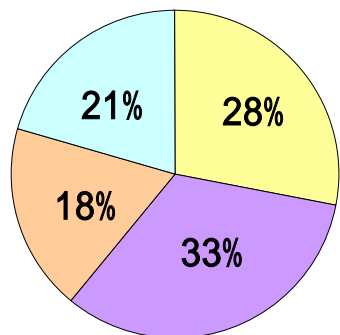
< 主要関係会社 >

国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

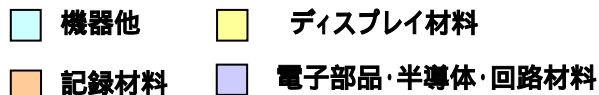
海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国) 他

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【07年3月期サブセグメント別売上高比率】



サブセグメント名



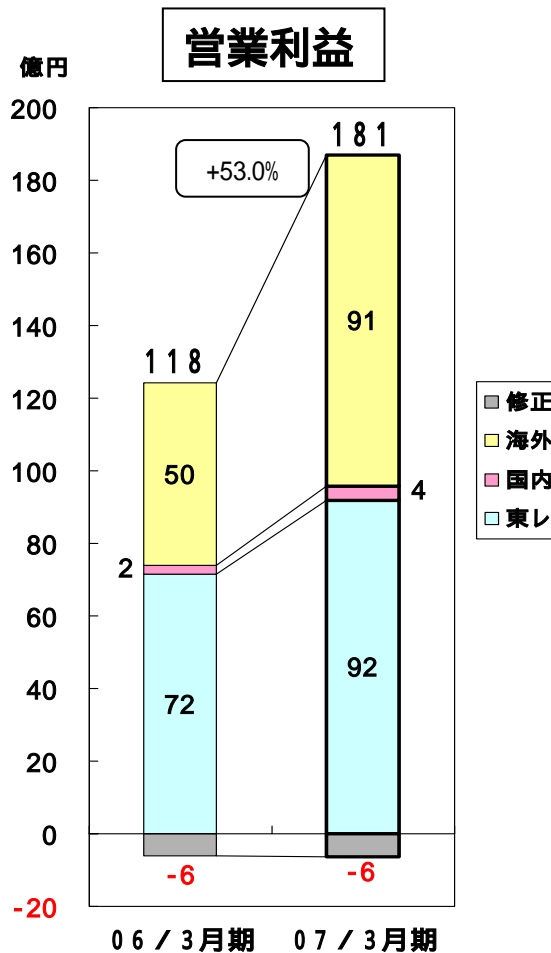
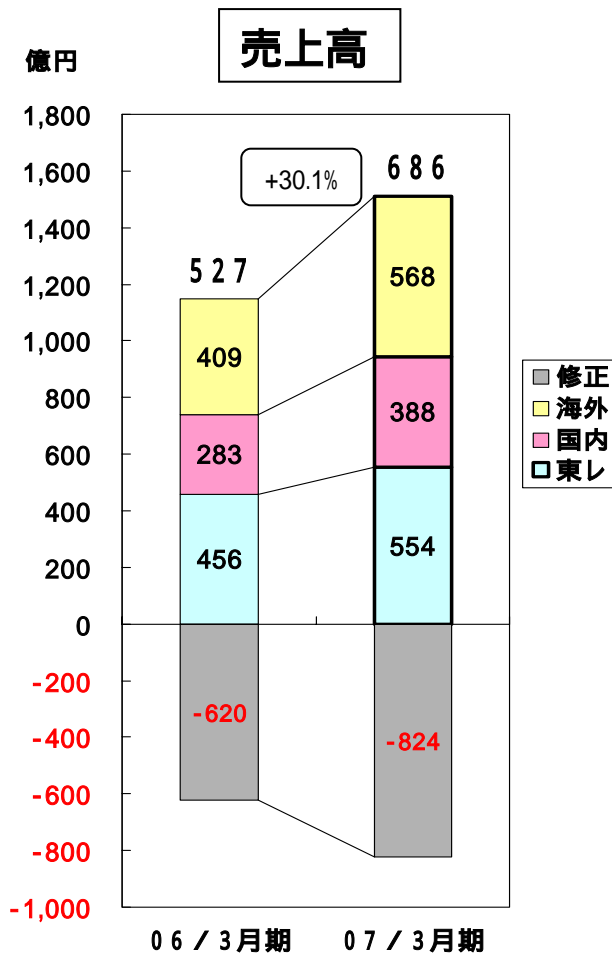
【サブセグメント別売上高推移】

(単位: 億円)

サブセグメント	通期計		
	06年 3月期	07年 3月期	増減率
ディスプレイ材料	527	741	+41%
電子部品・半導体・ 回路材料	742	867	+17%
記録材料	526	487	-7%
機器他	555	543	-2%
情報通信材料・ 機器セグメント合計	2,350	2,638	+12%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon)・受容紙用フィルム、印刷システム材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

事業セグメント別業績 (炭素繊維複合材料)



特記事項

東レ

航空宇宙・スポーツ・産業各用途とも旺盛な需要に対応し、炭素繊維、中間基材、成形品それぞれを拡販。2007年1月に稼働開始した愛媛工場増設分の増産・増販効果もあり、増収増益。

国内子会社

商事子会社が順調に拡販し、増収増益。

海外子会社

航空機用途・産業用途とも旺盛な需要に対応し拡販。2006年1月から増設設備が稼働した米国子会社の増産・増販効果もあり、増収増益。

本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

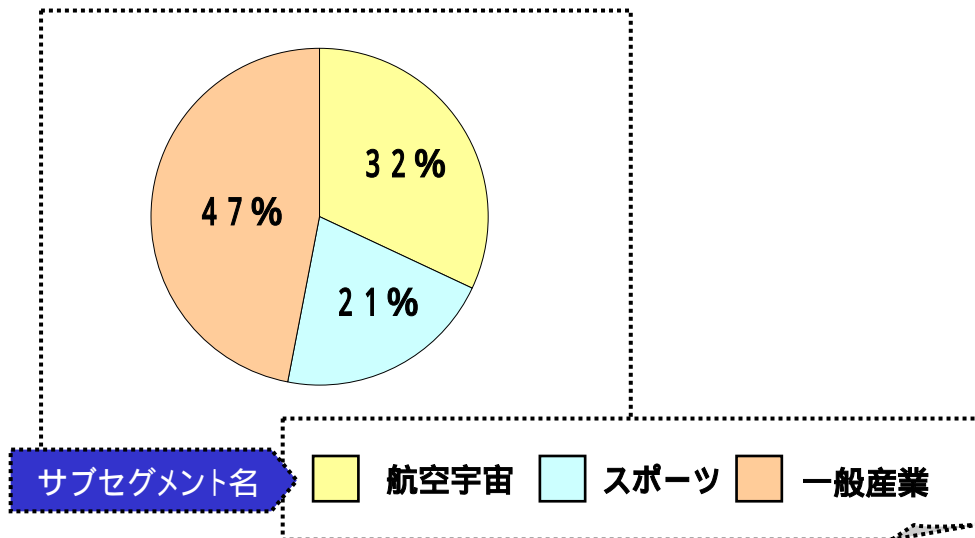
< 主要子会社 >

国内：東レインターナショナル

海外：SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)

炭素繊維複合材料セグメントの売上高の詳細

【07年3月期サブセグメント別売上高比率】



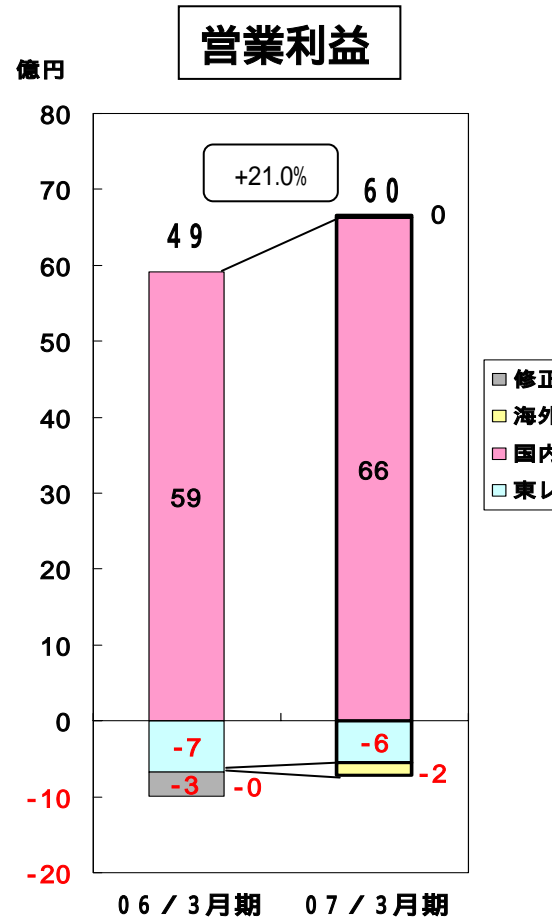
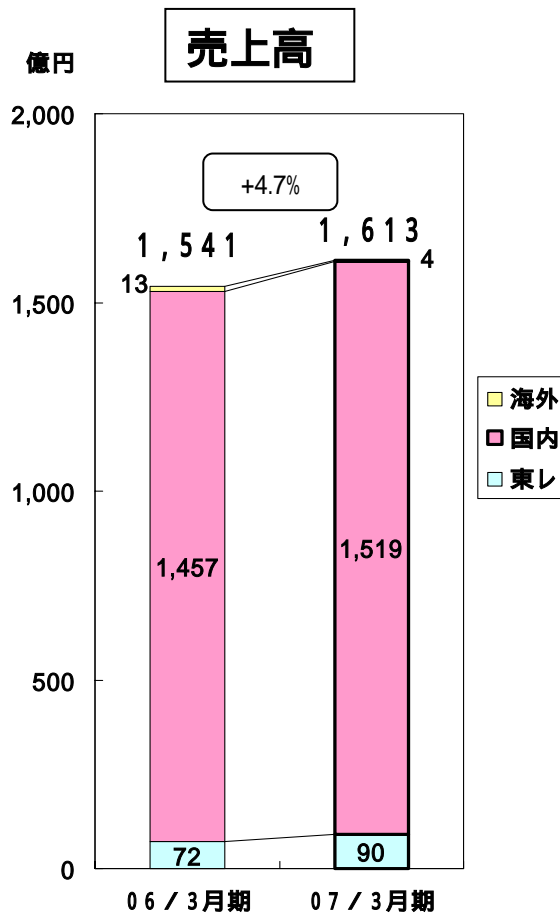
サブセグメント名	用途
航空宇宙	民間航空機 人工衛星 他
スポーツ	ゴルフ 釣り竿 自転車 ラケット 他
一般産業	圧力容器・タンク 自動車 船舶 風車 パソコン用筐体 土木建築 他

【サブセグメント別売上高推移】

(単位: 億円)

サブセグメント	通期		
	06年 3月期	07年 3月期	増減率
航空宇宙	163	222	+37%
スポーツ	110	143	+30%
一般産業	255	321	+26%
炭素繊維複合材料 セグメント合計	527	686	+30%

事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



特記事項

東レ

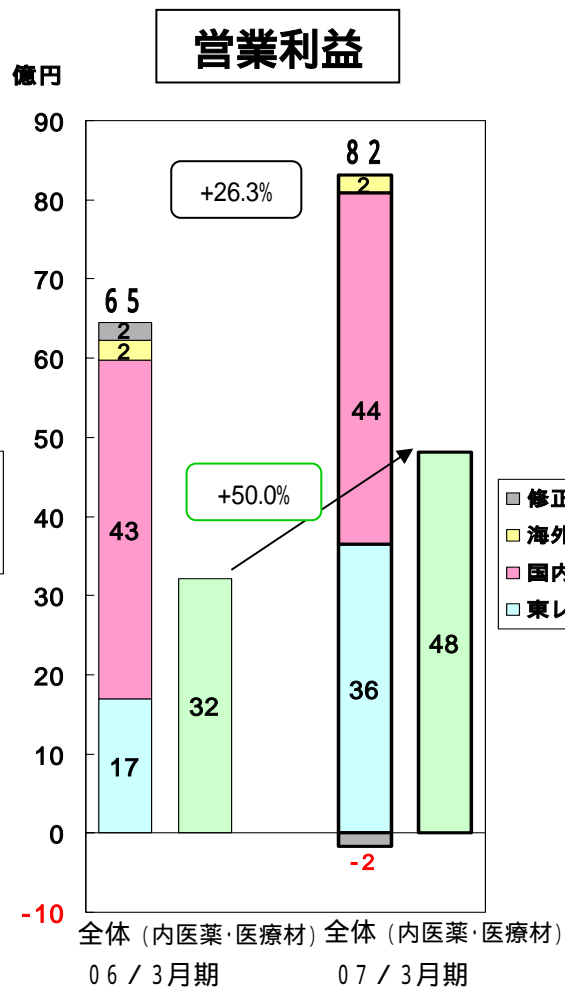
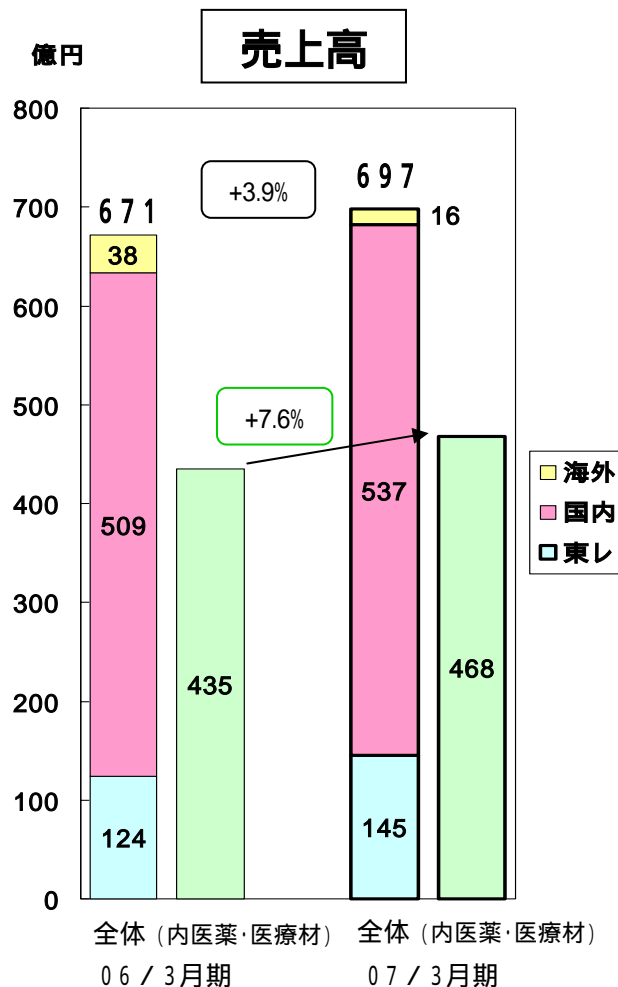
水処理事業は逆浸透膜(RO膜)の輸出が好調に推移し、増収、利益改善。

国内子会社

建設子会社、エンジニアリング子会社が堅調に推移し、増収増益。

< 主要子会社 >

国内: 東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他



特記事項

医薬・医療材

人工腎臓、救急・集中医療機器の拡販を進めたことに加え、ライセンス収入等の増加もあり、増収増益。

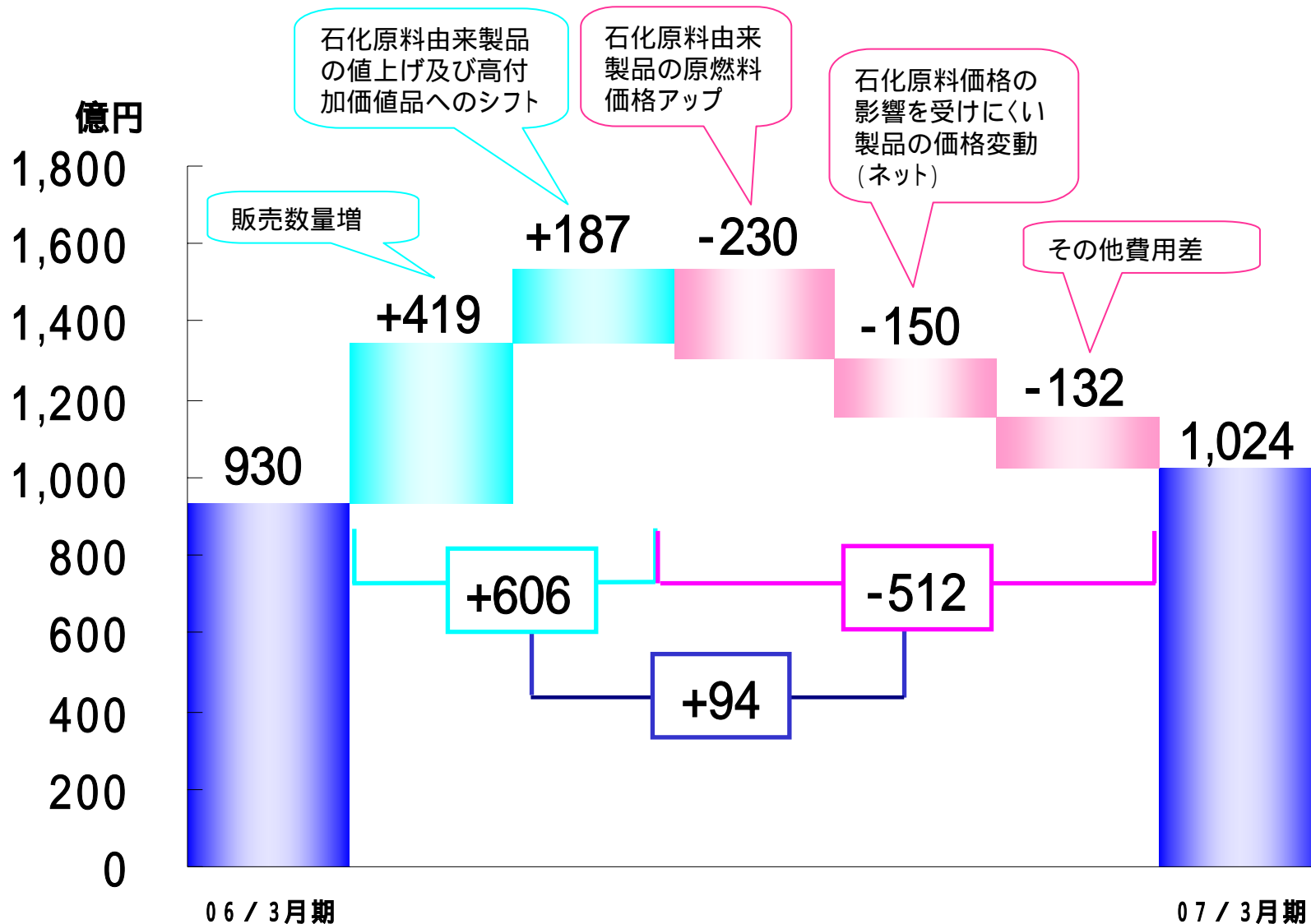
その他の事業

国内の分析事業子会社が堅調に推移し、増収増益。

< 主要関係会社 >

国内：東レメディカル、東レリサーチセンター、東レインタープライス 他

営業利益増減要因分析



主要子会社収益状況

Innovation by Chemistry

億円

	売上高			営業利益		
	06年 3月期	07年 3月期	増減	06年 3月期	07年 3月期	増減
東レインターナショナル	3,235	3,685	+450	37	45	+8
東レエンジニアリング	996	1,077	+81	67	90	+24
東レ建設	624	696	+72	24	30	+6
東レフィルム加工	390	441	+51	47	48	+1
東レメディカル	318	331	+13	13	13	+1
TSI(韓国)	715	840	+125	48	50	+2
TPM(マレーシア)	380	480	+100	17	18	+2

在東南アジア・子会社 * 1	繊維	958	1,062	+103	47	14	-33
	プラスチック・ケミカル	472	583	+111	27	26	-1
	その他	33	54	+21	3	1	-2
	計	1,464	1,698	+235	77	41	-35
在中国・子会社 * 2	繊維	558	697	+139	12	1	+13
	プラスチック・ケミカル	295	369	+73	3	5	+2
	その他	88	124	+36	7	10	+4
	計	942	1,190	+248	2	17	+19
在外・フィルム子会社 * 3	プラスチック・ケミカル	783	865	+82	48	15	-34
	情報通信材料・機器	320	398	+78	28	40	+12
	計	1,103	1,263	+159	76	55	-21

* 1:ITS、ETX、I STEM、ACTEM、CENTEX、Penfibre、PAB - G、TTS、LTX、TTTM、TPM 単純合計

* 2:TFNL、TSD、TAK/TAZ、TJQ、TCH、TSL、THK - G、TPHK/TPSZ、RKH/RKZ、TFH/TFZ 単純合計

* 3:TSI(フィルム・電材)、Penfibre(フィルム)、TPA、TPEu、TFH/TFZ 単純合計



・ 2008年3月期業績見通し

2008年3月期連結業績見通し

Innovation by Chemistry

億円

		減価償却制度変更後			ご参考: 減価償却制度変更前		
		07年3月期 実績	08年3月期 見通し	増減	08年3月期 見通し	増減	
売上高	上期	7,462	7,700	+238 (+3.2%)	7,700	+238 (+3.2%)	
	下期	8,002	8,900	+898 (+11.2%)	8,900	+898 (+11.2%)	
	通期	15,465	16,600	+1,135 (+7.3%)	16,600	+1,135 (+7.3%)	
営業利益	上期	429	440	+11 (+2.6%)	460	+31 (+7.2%)	
	下期	595	640	+45 (+7.5%)	670	+75 (+12.6%)	
	通期	1,024	1,080	+56 (+5.4%)	1,130	+106 (+10.3%)	
経常利益	上期	405	400	- 5 (-1.3%)	420	+15 (+3.7%)	
	下期	570	610	+40 (+7.0%)	640	+70 (+12.3%)	
	通期	975	1,010	+35 (+3.6%)	1,060	+85 (+8.7%)	
当期純利益	上期	280	220	- 60 (-21.6%)	230	- 50 (-18.0%)	
	下期	305	340	+35 (+11.4%)	360	+55 (+17.9%)	
	通期	586	560	- 26 (-4.4%)	590	+4 (+0.7%)	
1株当たり 当期純利益	上期	20.0円	15.7円				
	下期	21.8円	24.3円				
	通期	41.8円	40.0円				
1株当たり 配当金	上期	5.0円	5.0円				
	下期	5.0円	5.0円				
	通期	10.0円	10.0円				
配当性向	上期	25.0%	31.8%				
	下期	22.9%	20.6%				
	通期	23.9%	25.0%				

備考: 為替レート的前提は、115円 / US\$
原油価格見通しは、62US\$ / B
(DUBAI FOB)

事業セグメント別業績見通し (売上高 / 営業利益)

Innovation by Chemistry

億円

		売上高				営業利益			
		07年 3月期	08年 3月期	増減	(%)	07年 3月期	08年 3月期	増減	(%)
繊維	上期	3,018	3,000	-18	(-0.6%)	95	90	-5	(-4.8%)
	下期	3,059	3,200	+141	(+4.6%)	98	100	+2	(+2.3%)
	通期	6,078	6,200	+122	(+2.0%)	192	190	-2	(-1.2%)
プラスチック・ケミカル	上期	1,846	1,900	+54	(+2.9%)	87	95	+8	(+9.6%)
	下期	1,907	2,100	+193	(+10.1%)	106	100	-6	(-5.4%)
	通期	3,753	4,000	+247	(+6.6%)	192	195	+3	(+1.4%)
情報通信材料・機器	上期	1,278	1,400	+122	(+9.6%)	145	135	-10	(-7.1%)
	下期	1,360	1,600	+240	(+17.6%)	189	205	+16	(+8.3%)
	通期	2,638	3,000	+362	(+13.7%)	335	340	+5	(+1.6%)
炭素繊維複合材料	上期	319	400	+81	(+25.4%)	88	90	+2	(+1.8%)
	下期	367	500	+133	(+36.3%)	92	115	+23	(+24.4%)
	通期	686	900	+214	(+31.2%)	181	205	+24	(+13.4%)
環境・インフラ	上期	678	700	+22	(+3.2%)	1	20	+19	(+1639.1%)
	下期	935	1,100	+165	(+17.7%)	58	70	+12	(+19.9%)
	通期	1,613	1,800	+187	(+11.6%)	60	90	+30	(+51.2%)
ライセンスその他	上期	323	300	-23	(-7.1%)	20	20	+0	(+1.9%)
	下期	374	400	+26	(+6.9%)	62	60	-2	(-3.0%)
	通期	697	700	+3	(+0.4%)	82	80	-2	(-1.9%)
(内医薬・医療材)	上期	200	200	-0	(-0.0%)	6	5	-1	(-17.6%)
	下期	268	300	+32	(+11.8%)	42	40	-2	(-4.9%)
	通期	468	500	+32	(+6.8%)	48	45	-3	(-6.5%)
消去又は全社	上期					7	10	-3	(-)
	下期					10	10	+0	(-)
	通期					17	20	-3	(-)
連結	上期	7,462	7,700	+238	(+3.2%)	429	440	+11	(+2.6%)
	下期	8,002	8,900	+898	(+11.2%)	595	640	+45	(+7.5%)
	通期	15,465	16,600	+1,135	(+7.3%)	1,024	1,080	+56	(+5.4%)

ご参考: 減価償却制度変更前 営業利益				ご参考: 償却費 影響額
07年 3月期	08年 3月期	増減	(%)	08年 3月期
95	100	+5	(+5.7%)	-10
98	110	+12	(+12.5%)	-10
192	210	+18	(+9.2%)	-20
87	100	+13	(+15.4%)	-5
106	110	+4	(+4.1%)	-10
192	210	+18	(+9.2%)	-15
145	140	-5	(-3.6%)	-5
189	210	+21	(+10.9%)	-5
335	350	+15	(+4.6%)	-10
88	90	+2	(+1.8%)	0
92	120	+28	(+29.8%)	-5
181	210	+29	(+16.1%)	-5
1	20	+19	(+1639.1%)	0
58	70	+12	(+19.9%)	0
60	90	+30	(+51.2%)	0
20	20	+0	(+1.9%)	0
62	60	-2	(-3.0%)	0
82	80	-2	(-1.9%)	0
6	5	-1	(-17.6%)	0
42	40	-2	(-4.9%)	0
48	45	-3	(-6.5%)	0
7	10	-3	(-)	
10	10	+0	(-)	
17	20	-3	(-)	
429	460	+31	(+7.2%)	-20
595	670	+75	(+12.6%)	-30
1,024	1,130	+106	(+10.3%)	-50

事業セグメント別事業環境とアクションプラン

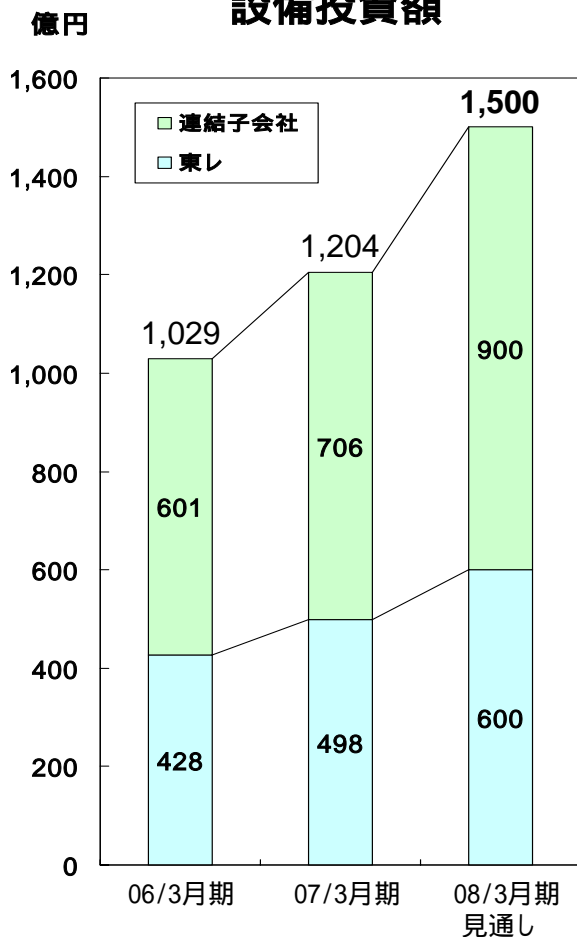
Innovation by Chemistry

億円

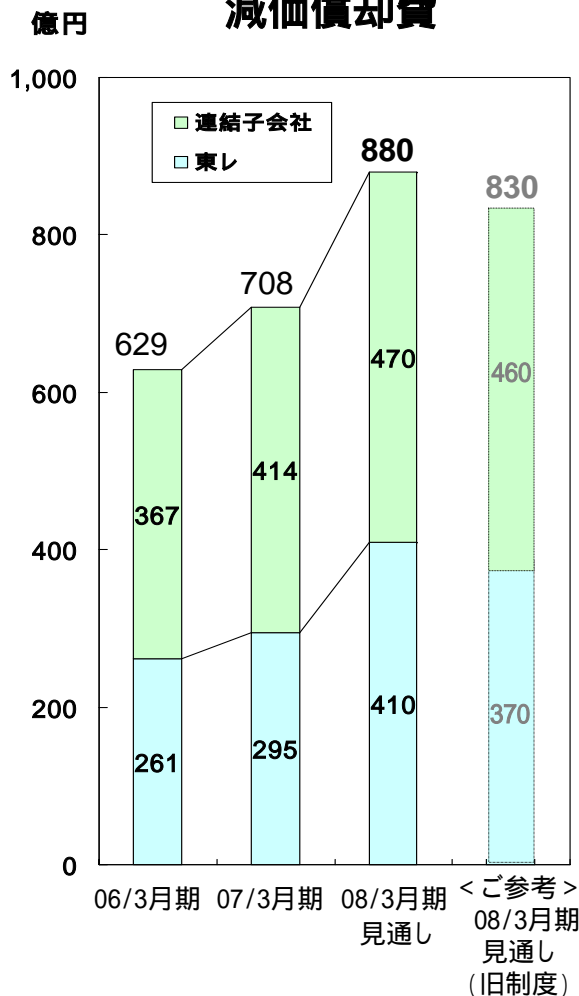
事業セグメント	営業利益 07/3 08/3 ()内差異	事業環境	アクションプラン
繊維	192 190 (- 2)	<ul style="list-style-type: none"> 中国の成長加速 自動車用途等、産業用途の拡大 原燃料価格の高止まり 	<ul style="list-style-type: none"> “New Value Creator”の推進 先端材料の拡大 中国子会社の収益拡大、海外業績不振子会社等の収益改善
プラスチック ・ケミカル	192 195 (+ 3)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車用樹脂・フィルムの需要拡大 汎用PETフィルム競争激化 原燃料価格の高止まり 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽電池、ハイブリッドカー用フィルム等高付加価値成長分野での拡販 自動車用樹脂の拡販 樹脂事業のグローバル供給体制の構築 海外業績不振子会社等の収益改善
情報通信材料 ・機器	335 340 (+ 5)	<ul style="list-style-type: none"> IT関連機器(FPD等)市場拡大 値下げ圧力の継続 LCD設備投資一服 	<ul style="list-style-type: none"> FPD用光学フィルム及びフィルム加工品の拡販 韓国子会社でのIT関連フィルム・回路材料の拡販 半導体材料等新規先端材料の拡販
炭素繊維 複合材料	181 205 (+ 24)	<ul style="list-style-type: none"> 全用途とも需要は堅調でタイトな需給バランス継続 航空機用途の本格拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機用途本格拡大への対応 愛媛工場の増産・増販 川下展開(プリプレグ、コンポジット強化)
環境・ エンジニアリング	60 90 (+ 30)	<ul style="list-style-type: none"> 海水淡水化、下廃水再利用等の需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル営業体制構築による水処理膜事業の拡大 水処理エンジニアリング事業の収益改善
ライフサイエンス その他	82 80 (- 2)	<ul style="list-style-type: none"> 国内医薬市場横ばい ダイライザ-事業競争激化 	<ul style="list-style-type: none"> 効能追加(C型代償性肝硬変)により、“フェロン”増販 新薬・効能追加の承認申請の着実な実施 新製品モイストタイプトスルホン(“トライト”)の拡販
消去又は全社	17 20 (- 3)		
連結	1,024 1,080 (+ 56)		

設備投資額・減価償却費・研究開発費見通し

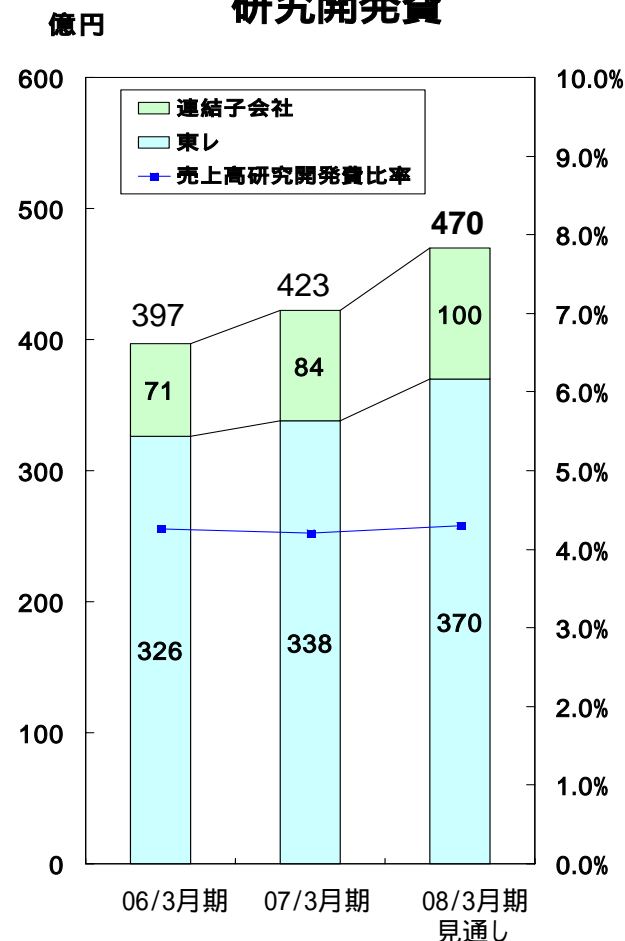
設備投資額



減価償却費



研究開発費



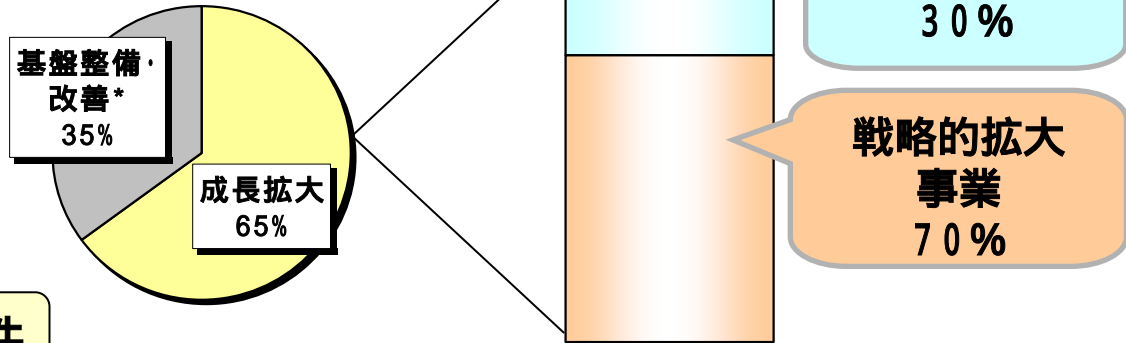
* 売上高研究開発費比率は下記商事子会社を除くベース

< 国内 > 東レインターナショナル(株), 蝶理(株), 一村産業(株), 丸佐(株), 東レアイリーブ(株)等
 < 海外 > TOMAC(アメリカ), TEL(UK), TCH・THK(中国)等

東レグループ2007年度設備投資見通し **TORAY** Innovation by Chemistry

1,500億円の設備投資のうち、成長拡大目的へ約2/3、そのうち、炭素繊維複合材料を中心とした戦略的拡大事業へ約70%を配分する。

1,500億円の設備投資



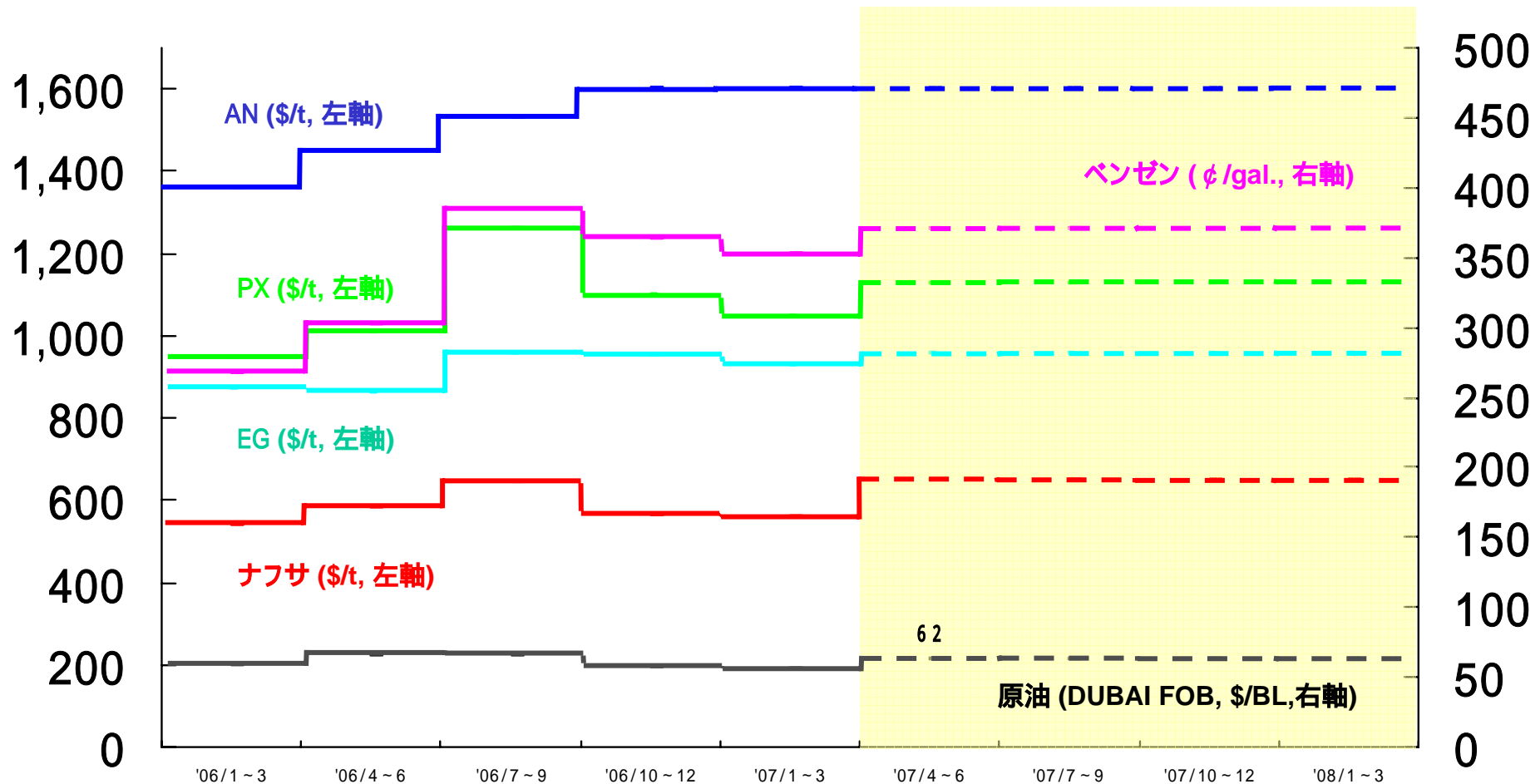
* 基盤整備・改善 = 環境・安全・防災・省人化・合理化・維持投資 他

主な成長拡大設備投資案件

事業領域	セグメント	製品	会社名	追加設備能力	稼働開始時期	設備投資額 (07年度)
基盤事業	繊維	PPスパンボンド(新設)	TPN(中国)	18,000t/年	2008年2月	約300億円 (左記以外の 案件も含む)
	プラスチック・ケミカル	PPS樹脂(増設)	東海工場	9,000t/年 11,500t/年	2007年12月	
		ABS樹脂(増設)	TPM(マレーシア)	220,000t/年 330,000t/年	2008年3月	
戦略的拡大事業	情報・通信材料・機器	TAB・COFテープ(増設)	STEMCO(韓国)	生産能力72%増	2007年3月	約700億円 (左記以外の 案件も含む)
		PDPペースト(増設)	滋賀事業場	2,700t/年 5,160t/年	2007年6月	
		COF用材料(増設)	TSI(韓国)	70万㎡/年	2007年10月	
	炭素繊維複合材料	炭素繊維(増設)	SOFICAR(フランス)	CF:2,600t/年 3,400t/年	2007年8月	
		炭素繊維(増設)	愛媛工場	CF:6,900t/年 7,300t/年	2008年1月	
		炭素繊維(増設)	CFA(米国)	CF:3,600t/年 5,400t/年	2008年12月	
		炭素繊維(増設)	SOFICAR(フランス)	CF:3,400t/年 5,200t/年	2008年12月	
		グリブレグ(増設)	TCA(米国)	グリブレグ:1,140万㎡/年 1,720万㎡/年	2008年7月	
グリブレグ(新設)	石川工場	グリブレグ:580万㎡/年	2009年1月			
合計						約1,000億円

原料価格の見通し

主要原料の価格は、2007年度も高値の水準で推移する見通し。





・最近のトピックス

発表時期	トピックス
06 / 4	マレーシアでABS樹脂“トヨラック”の生産体制を増強
06 / 4	天然型インターフェロン ベータ製剤 “フェロン”のC型代償性肝硬変への効能追加について
06 / 4	マレーシアにおけるPBTベースレジン合併会社の稼働開始について
06 / 4	米国ボーイング社B787向け炭素繊維複合材料の長期供給に関する包括的正式契約を締結
06 / 5	中国・華北における樹脂コンパウンド新拠点の確立
06 / 6	炭素繊維複合材料の革新的量産技術を開発
06 / 6	ユニクロ社・東レ「戦略的パートナーシップ」の構築
06 / 7	海水淡水化用に、高い「ホウ素」除去率を有する高性能逆浸透膜を開発
06 / 8	中国での高機能ポリプロピレン長繊維不織布新会社の設立
06 / 9	「TRK-820」についての肝疾患に伴う掻痒症を適応症とする共同開発及び販売に関する契約を締結
06 / 9	LCDバックライト用機能統合フィルムの開発に成功
06 / 9	金属を用いず金属光沢調・易成形フィルムの開発に成功
06 / 10	世界初の熔融紡糸セルロース系繊維“フォレッセ(Foresse)”による環境配慮型テキスタイルを開発
06 / 10	韓国で電子回路用の基板フィルムを事業化
06 / 10	PDP用感光性ペーストの生産設備の増設について

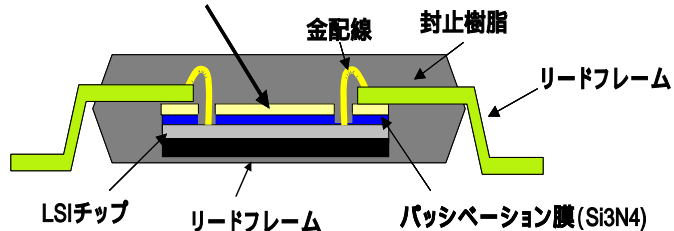
発表時期	トピックス
06 / 10	世界最高レベルのタンパク質解析技術を開発し、新規の癌マーカーを発見
06 / 10	高機能樹脂PPS、LCPの生産設備を増強
06 / 11	炭素繊維複合材料による軽量・安全自動車車体の開発を一段と加速
06 / 11	世界初、実用化レベルの耐久性を有する燃料電池用炭化水素系電解質膜の開発に成功
06 / 12	ナノ構造制御技術を駆使し、高機能・高性能な半導体実装用接着シートを開発
06 / 12	可視光で硬化する炭素繊維複合材料用の新規樹脂を開発
06 / 12	東レとパタゴニア社によるナイロン6のマテリアルリサイクルの取り組みについて
07 / 1	PDP国内第5工場を兵庫県尼崎市に建設
07 / 1	東レの逆浸透膜、地中海沿岸の海水淡水化プラントで相次いで受注
07 / 1	世界初、衝撃吸収プラスチックを開発
07 / 2	次世代半導体保護膜向け低温硬化型感光性ポリイミドを開発
07 / 2	炭素繊維 日米仏3拠点で4,000トン増設 国内では石川県にプリプレグ生産の新拠点
07 / 2	温室効果ガスの削減取り組みを加速 国内2工場で燃料転換 CO2排出量を年間10万トン削減
07 / 4	ユニクロ社・東レ パートナーシップ提携後初の共同開発商品が誕生

次世代半導体保護膜向け 低温硬化型感光性ポリイミドを開発

200 以下の低温硬化ができ、かつ環境に優しいアルカリ現像が可能な感光性ポリイミドコーティング剤の創出に世界で初めて成功。次世代半導体向け保護膜用途を中心に本格的に販売を開始。

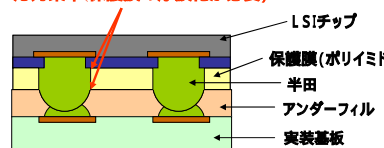
用途: 半導体用保護膜

半導体用保護膜(ポリイミドなどの耐熱性樹脂)
: LSIチップの表面を保護しデバイス信頼性を向上



次世代半導体向けへの要求

LSIの高速化 ワイヤボンディングから bumps 接続
応力集中(保護膜の厚膜化が必要)



LSIの微細化 デバイス配線構造・材料の変化

高誘電率ゲート絶縁層
多孔質 Low K 材、銅配線

厚膜化
(20 μm 以上)

低温硬化
(200 以下)

新規ポリイミド樹脂技術

ポリイミド樹脂と感光成分をナノレベルで相溶化

200 以下の低温硬化可能(従来300 以上)、
膜厚20 μm 以上、アルカリ現像可能な
ポリイミドコーティング剤を開発

現状

保護膜市場規模: 約200億円

90nm以下の最先端半導体用保護膜
用途で世界第一位のシェア

2010年近傍

保護膜市場規模予測: 約300億円

低温硬化タイプを加えることで次世代以降
での新規用途開拓を推進。新ライン向けに
30%以上のシェア獲得を目指す

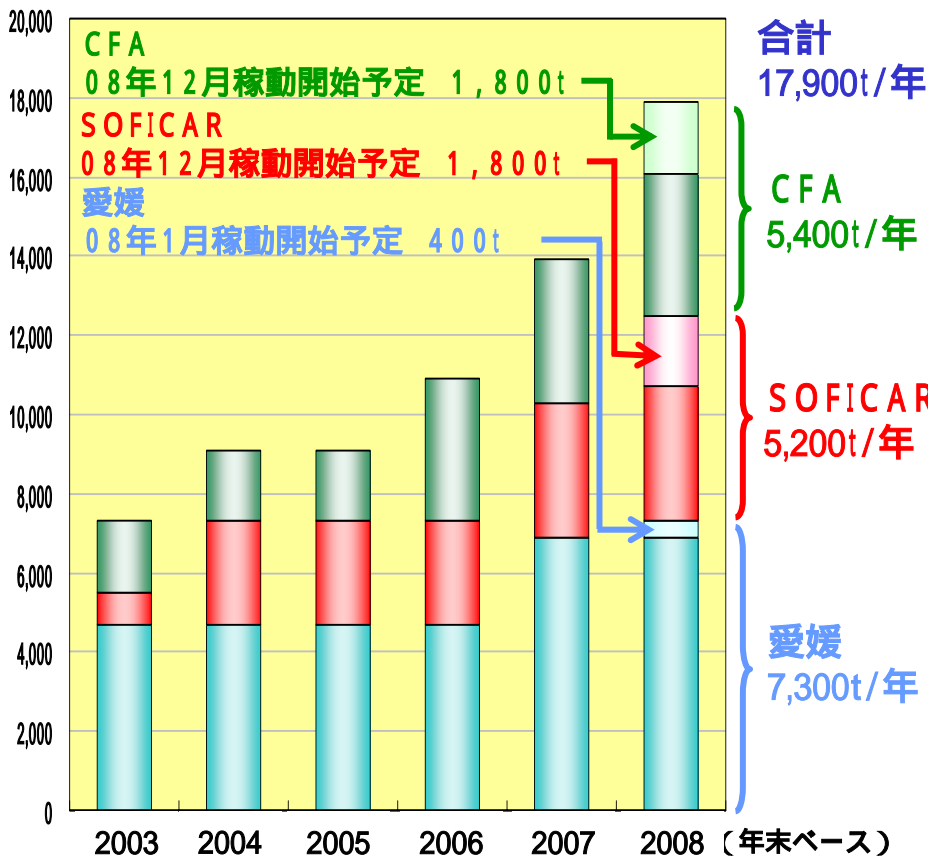
炭素繊維 日米仏3か国5拠点で炭素繊維“トレカ” 複合材料の生産設備増強



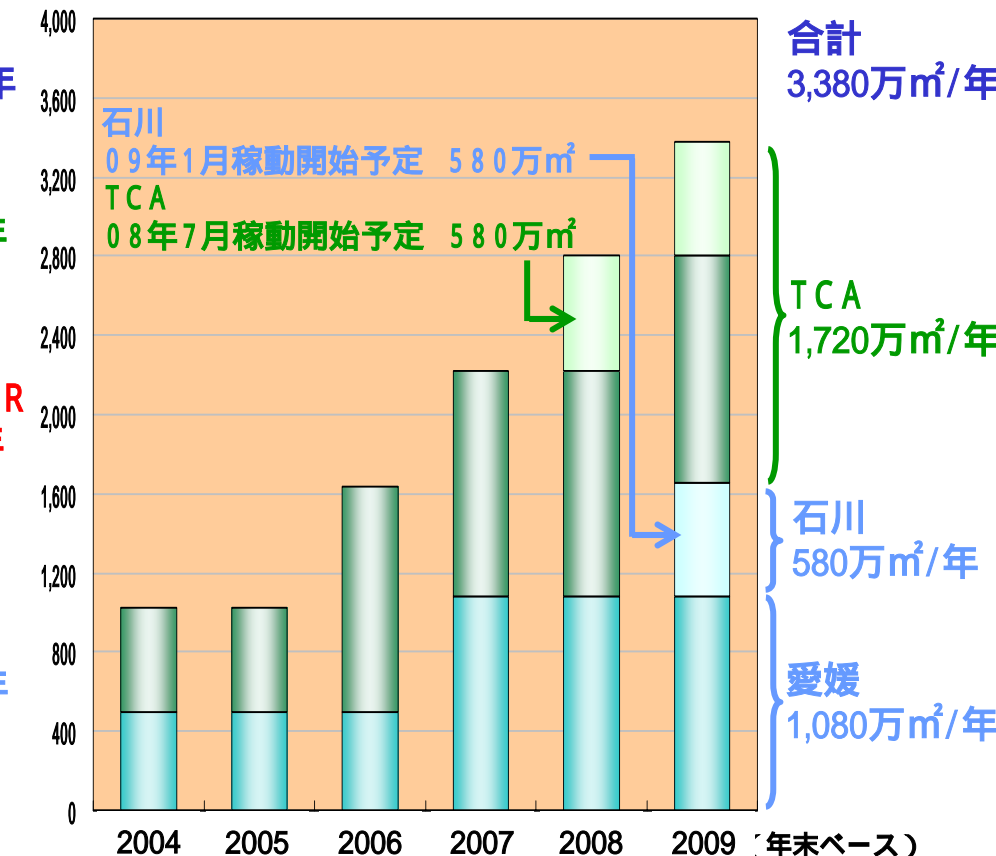
Innovation by Chemistry

航空機用途をはじめとするPAN系炭素繊維の本格的な需要拡大に対応するべく、日米仏3か国5拠点で炭素繊維“トレカ”複合材料の生産設備増強を決定。総額550億円を投じて、2009年初めまでにグループ全拠点で設備増設を実施する。国内では愛媛工場に次ぐ二番目のプリプレグ(炭素繊維樹脂含浸シート)生産拠点として、新たに石川工場にプリプレグ生産設備を設置。

トン/年 東レグループの炭素繊維生産能力推移



万㎡/年 東レグループのプリプレグ生産能力推移



2010年の目標: 世界販売シェア40%(2006年現在34%)、連結売上高1,600億円



温室効果ガスの削減取り組みを加速

国内2工場で燃料転換 CO₂排出量を年間10万トン削減



Innovation by Chemistry

国内2工場で自家発電設備の燃料転換等を実施し、温室効果ガスの排出量削減取り組みを加速。二酸化炭素(CO₂)排出量を年間10万トン削減できるとともに、大気汚染物質の一種の硫黄酸化物(SO_x)も年間1,500トン削減。これによりCO₂の全社排出量を4.2%、SO_xについては同50%削減する。

	滋賀事業場	三島工場
温室効果ガス・ 大気汚染物質の 排出量削減 取り組み	自家発電ボイラーを 重油 燃焼 から 都市ガス に転換 (稼働開始:2007年1月)  (改造後のボイラー)	自家発電ボイラーを 重油 燃焼 から 都市ガス に転換 (稼働開始:2007年7月)  (4月現在改造工事中)
	ガスタービンコージェネレーシ ョン 設備(7,000kW×2基)を 導入(稼働開始:2007年10月)	
二酸化炭素(CO ₂) 排出量削減効果	4万トン	6万トン
硫黄酸化物(SO _x) 排出量削減効果	700トン	800トン

全社GHG排出
量を4.2%
削減

全社排出量
を50%
削減

環境配慮型製品や製品リサイクルの事業拡大に加え、生産活動においても、地球温暖化対策の一環となるCO₂などの温室効果ガス排出量削減を一層推進し、地球温暖化防止に貢献します。

ユニクロ社・東レ パートナーシップ提携後 初の共同開発商品が誕生

TORAY

Innovation by Chemistry

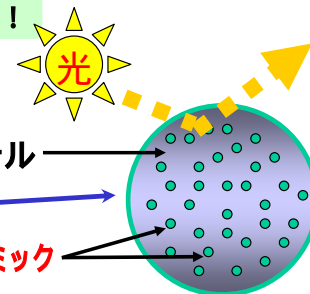
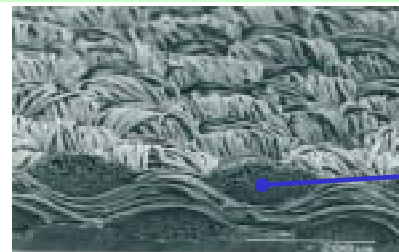
ユニクロ社と東レは、2006年3月に締結した戦略的パートナーシップ構築に関する基本合意に基づき、消費者の皆様には新しい価値のある品を提供するための商品開発を継続し、今般、パートナーシップ締結後初の共同開発商品が誕生。原糸生産、高次加工から縫製の一部まで、東レグループで一貫したオペレーションを展開。

TORAY
Innovation by Chemistry

UNI
QLO

スタイリッシュホワイトの機能特性

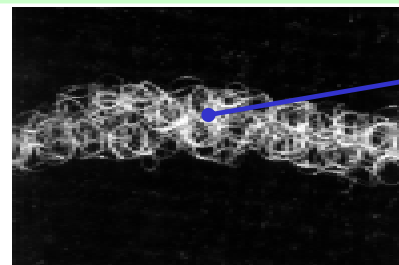
高濃度セラミックが光の透過を抑制し透けを防止！



ポリエステル

高濃度セラミック

微細な巻縮により透け防止効果と柔らかさがUP！



細く柔らかい糸に、更に微細な巻縮加工加えることにより、ソフトさをUPするとともに、空隙を減らし防透け性もUP。



stylishwhite

共同開発商品“スタイリッシュホワイト”は、透けにくさと快適さを両立。夏のボトムスに対する女性の要望に応え、従来商品の快適性をそのままに、透けにくさを実現し、新しい価値をお客様に提供。

本資料中の2008年3月期の業績見通し及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。